

びと

ボランティア・
NPOの情報紙
10号 mar.2010

とくしま県民活動プラザ

770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地沖洲マリンターミナルビル1F
tel:088-664-8211 fax:088-664-5345 e-mail:info@plaza-tokushima.com
<http://www.plaza-tokushima.com> <http://www.tokuvc.jp>

豊かさの裏側を 知っていますか？

現代の私たちは、海外から輸入した資源、食糧などを大量に消費し、いらなくなれば簡単に廃棄するという生活を送っている。しかし、私たちがそんな豊かな生活を送るその裏側で、多くの人々が飢餓や貧困、病気に苦しみ、適切な医療を受けられずに亡くなっていることを、あなたは知っているだろうか。

特定非営利活動法人TICO（ティコ）は、その現実と向き合い、アフリカ南部にあるザンビア共和国を中心に国際協力をしている。彼らの目的は、一時的な物資の配給や医療サービスの提供など一方的に『与えるだけの支援』ではなく、支援を終えた後も現地の人々自身の手で、その環境を維持していくような『自立を促す支援』を行うこと。その内容は多岐にわたり、様々なプロジェクトが進行中だ。彼らが徳島から発信する国際協力とは、そして、伝えたい想いとは？



特定非営利活動法人 TICO

※TICO…Tokushima International Corporation

広い視野からの支援を

「なぜザンビアなんですか?」この問い合わせに「たまたまです。」と笑顔で答える代表の吉田修さん。彼自身が医師として青年海外協力隊やJICA[※]専門家として多くの国々を訪れ、その力を發揮してきたが、最後に赴任したのがザンビアだったのだという。多くの国際・政府機関やNGOが、貧しい国々を救済すべく様々な支援をしてきているが、一つの分野に特化した支援では、貧困問題の根本的な解決は容易ではない。TICOも医療支援を重点的に行なうことがあるが、医療分野だけでなく水、農業など幅広い視点からの総合的かつ自立へ繋がる支援の必要性を感じ、まずはルサカ(ザンビアの首都)にあるンゴンバ地区で多面的なアプローチによる民生改善を行っていた。

※JICA…独立行政法人国際協力機構



事務局長 福士庸二さん

2002年、サハラ砂漠以南のアフリカ地域一帯で起きた大干ばつにより、1,200万人の人々が飢餓に苦しんだ。TICOは同年10月から半年間、南部州を中心に飢餓対策緊急援助を行ったが、そこで得た教訓は「緊急援助の限界」と「農村における根本的対策の必要性」だった。事務局長の福士さんは言う。「この大干ばつは、先進国である我々が排出する温室効果ガスが原因で気候変動が問題になっていると言わだした頃の出来事だったんです。1,200万人と言うと、日本の人口の約10分の1です。これだけの人が飢餓に苦しんでいるのに、日本で報道されたのは小さな新聞記事だけ。関心のなさが伺えます。このままいけば、大干ばつによる悲劇は繰り返されることになってしまう。そう考えて干ばつに強い村作りをしようといふことになったんです。」

干ばつに強い村作り(WAHEパッケージ)

TICOが考えたのは、人間が生きていくために必要なWater(水)、Agriculture(農業)、Health(健康)、Education(教育)の4つのキーワードを中心とした、持続可能で干ばつに強い村を作ること。安全な水や食料が十分に確保され、誰もが医療と教育を受けることができれば、人々の健康状態や生活状況が向上し、干ばつに対する抵抗力をつけることができるからだ。



タマネギに水やり



地力の回復を図っている畑



ディップタンクの様子



ローンを組んで開店した店



ヘルスポストへ母子健診に来た人々



コミュニティースクールの子ども達



カンボジアでも活動中!
TICOは、2008年から香川県高松市のNPO法人セカンドハンドと協力して、カンボジアでも活動を始め、「救急体制整備事業」を開催している。

カルブエ菜園プロジェクト (2004~2007年) …井戸を掘った後、水を汲み上げるために太陽発電ポンプと、汲み上げた水を貯めるためのタンクを設置。タンクからは高低差を利用して、菜園へ水を供給。さらに簡易灌漑システム(ドリップイリゲーション)を導入することで、乾期でも耕作を可能にした。農民には野菜栽培などのセミナーを実施。

アグロフォレストリー事業…ザンビアでは、長年の化学肥料の多用による地力の低下が問題となっていたため、現地の農業短期大学と連携し、土壌改善に役立つ作物を使用した混合栽培を提案。他にも、ひまわり、大豆、落花生、トウモロコシの輪作を進めている。

家畜糞浴槽リサイクル活用…人々にとって財産である牛が、ダニの媒介によって発生するコリドー病などの疫病により死亡するのを防ぐため、ヨーロッパの援助で作られたものの老朽化したため長年放置されていた家畜糞浴槽(ディップタンク)をリサイクル活用する活動を行っている。

農村開発ローン…農民グループに対し、彼らが考え出した事業を支援するため、事業資金の貸し付けと、事業運営についての指導を行っている。養鶏や養豚、日用品の販売、幼稚園の運営などを支援し、ゆっくりではあるが返済も進んでおり、約8割の返済率を誇っている。

プライマリーヘルスケア事業…医療機関へのアクセスが悪い地区(半径30kmに1つも医療機関がない)に、ヘルスポスト(簡易診療所)を建設し、最低限の医療を受けられる環境を作った。そこでは、村の有志が務める住民保健ボランティアや、栄養改善普及員の育成も行い、地域住民が主体となった保健医療システムの構築を図っている。

コミュニティースクール支援…公立学校の数が少ないため、地域の親たちが立ち上げたコミュニティースクールでは、親や近所の人たちがボランティアで教師となり、授業が行われている。しかし、国からの支援もなく、設備環境も行き届いていないのが現状だ。そこで、校舎や学校施設の修理・整備をするなど、教育現場の改善を目指している。

徳島から発信する国際協力

TICOが活動しているのは、もちろん海外だけではない。日本国内でも国際協力についての理解や協力を得るための活動の一つとして、「TICO合宿」と呼ばれる国際協力に興味のある学生等を対象とした合宿を行っている。国際協力経験豊富なTICOスタッフによる手作りのワークショップや講義、農作業体験などを通じて、国際協力について学ぶ場を提供している。また、1997年から続けられている「地球人カレッジ」は「地球規模で考えながら地域から活動していく」をテーマとした公開セミナーで、国際協力だけに留まらず幅広い分野の講師を招き、「分からないなら、みんなで勉強しましょう」というスタンスで、毎月1回のペースで開催するなど、国内でも様々な活動を展開している。



TICO合宿に参加した学生たち



ワークショップテキスト「チャレンジアフリカ」



農作業の様子



地球人カレッジの様子

TICOが伝えたいこと

これまで、ザンビアを中心に様々な国際協力を実践してきた彼らに、「今、読者に伝えたいことは?」と質問すると、声をそろえて「もっと関心を持ってほしい。」という答えが返ってきた。「なんで他の国は助けるのに、徳島のことをせんの? 国際協力をしても何の得があるん?」これは県民からよく言われることなのだという。事務局員の庄田さんと瀬戸口さんは、「日本を見ると世界が見えるし、世界を見ると日本を見ないといけないなと思う。自分たちの生活を振り返ったとき、例えば、スーパーの野菜や、携帯電話に使われている金属も、海外の色々なところから来ているんですね。ザンビアの人々は今でも、日当150円程、月給にして2~3,000円という過酷な労働条件で働きながら、家族を養っています。私たちの生活はそんな貧しい世界の人々によって支えられているんです。この便利な生活の裏側に何があるのか?それをちょっと考えただけでも、関心を持ってもらえるんじゃないかなと思うんです。」と、国際協力に携わったからこそ見えてきた現実と、その思いを語ってくれた。

私たちに求められているもの。それは、徳島や日本の「今」だけを見て、目の前にある損得に囚われるのではなく、世界を見つめる広い視野と、ずっと先の未来を考え、行動する力なのである。今、あなたを取り巻く「世界からの恩恵」に目を向けてみて欲しい。きっと、そこには多くの命が繋がっているはずである。



事務局員
庄田 多江さん(左)、瀬戸口 千佳さん(右)



~ Profile ~



特定非営利活動法人
TICO

1993.11 徳島で国際協力を考える会(TICOの前身)発足
2002.1 正式名称をTICOに変更
2004.9 特定非営利活動法人として認証



理事長 吉田 修さん

ザンビアという遠く離れた国と、徳島の田舎を結ぶキーワード、それは『循環型社会の実現』だ。TICOは吉野川市山川町という田舎町に拠点を置くことで、自らがモデルとなり循環型社会の必要性を訴えている。「今の我々の暮らしや文明が正解かと言うと、これは失敗なんです。資源を浪費し、環境を破壊しながらじゃないと持続できない社会ですから。だから、ザンビアの人たちに、「日本のマネをしなさい」と言うつもりは全くありません。お互いに、間違っていない暮らしを研究していきましょう。だから、私たちはここ山川町で有機農法の野菜や米を育て、化石燃料をできるだけ使わない地球温暖化対策を行いながら、外国に迷惑をかけない暮らしを実現することで、循環型の持続可能な社会を提案していきたい。それは、田舎だからこそできることだと思います。」そう語る吉田さんの目は、現実を鋭くとらえ、確実に未来を見据えていた。

今後もTICOの活動は続いている。彼らの活動に注目したい。

【お問い合わせ先】

TICO事務局
〒779-3403
徳島県吉野川市山川町前川120-4
TEL/FAX 0883-42-2271
HP <http://www.tico.or.jp/>



子どもは沢山の可能性を秘めた存在です。

子どもはそれぞれ、いいところをいっぱい持つて生まれてきたのに、大人の価値観で判断してしまいがちです。大人の理想像に沿わなければ、叱られる事が多いですよね。でも、それってコインの裏表で、大人から見て悪いと思えるところも見方を変えるといいところに変わると思うんです。もちろん、してはいけないこと、守らなくてはいけないことを子どもたちにきちんと教える責任が大人にはあります。でもそれと同時にその子の持っている素晴らしいところを認めてあげ、自尊感情を高めるようなかかわり方を大人がしていくことがとても大事だと思うんです。子どもの自己肯定感を高めることができ、子どもを暴力の被害者にも、そして加害者にもしないことにつながるということが、色んな調査結果から明らかになっています。

最近は、高校生対象にデートDV*防止セミナーをしています。DVが大人だけではなく、若者の間にも起きていて、予防教育が効果的で

*DV(domestic violence)とは、夫や恋人など親密な男性から受ける暴力のこと。

あるということが分かってきたんです。統計的には、日本の既婚女性の3人に1人がDVを受けた事があり、20人に1人が命に関わる程の暴力を受けた事があるといいます。DVがどういうものであるか、そして防ぐためにはどうしたらいいかを高校生のときに知っておくことは本当に大切です。実際にセミナーを受講した高校生が、自分たちの関係がデートDVであるということに気づき、身近な大人に相談し、早期対応ができたというありました。

ただ、私がこうやって活動できるのも夫の理解と協力があるからなんです。夫からこんなことを言われたことがあります。「ボクには君のような活動は出来ないけど、ボクが応援することで君が色々な活動をやれて、子どもたちのためになるんだったら、それはボクにとっても嬉しいこと。だからこれからも君を応援していくよ」って。そんな夫に私はとても感謝しているんです。

CAPとくしまについて

1998年8月CAPとくしま発足以来、現在に至るまで、県内の小中学校・幼稚園・保育所等で数多くワークショップを行っている。従来の「～してはいけませんよ」式の危険防止教育とは異なり、子どもたちの持っている「内なる力」を引き出すプログラム(エンパワメント)になっている。「こどもワーク」には必ず「おとなワーク」もプログラムされていて、子どもたちが安心して大人に相談できる環境づくりを行っている。

CAPとくしまのワークショップで紹介している書籍



阿部和代さん

(あべ かずよ)

CAP (Child Assault Prevention=子どもへの暴力防止)とくしま代表。アウエア認定デートDV防止プログラム・ファシリテーター。自分の生き方に疑問を感じ、フェミニストカウンセラー養成講座を受講。その後、CAPとくしまの代表として活動。

時間をかけること。 すこやかであること。

NPO法人グリーンバレー理事長 大南信也

筆力の無さを思い知らされた連載も今回が最終章。何で締めようかと思案していたところ、国際交流基金地球市民賞をいただけるというニュースが飛び込んできました。仲間とともに、人生の4分の1を費やした時間への褒美のような



ものでしょうか。「過疎化地域が生き残るための解決策を見出そうと、アートを柱に世界と地域をつなぎ、グローバルな地域活性化を図っている」という受賞理由は、グリーンバレーの目指すミッションそのものです。のんきな話ですが、最終選考のヒアリングの連絡があるまで、応募（他薦）されていたことさえ知りませんでした。まさに青天の霹靂。無欲が幸いしたのかもしれません。

前置きが長くなりましたが、地域づくりで留意するべきことを2つ述べます。1つは（前述のように）時間がかかること。時間をかけること。少なくとも10年が一区切りです。

次に神山町にやってきた名古屋の女性は、次のような言葉を残してくれました。「神山町には、自然、昔からの人々の暮らし、そして、新しい文化とセンスが共存していた。すてきなウェブサイト「イン神山」は実際に神山町に存在する、たくさんのすてきな人々と美しい自然、新しい風が、見え隠れしているものだった」。ありのまま、あるがままの姿を堂々とさらけ出すこと。そんな飾らないすこやかさが人々を魅了するのだと思います。

最後まで拙文をご辛抱くださいました読者の皆さんに心よりお礼を申し上げます。

Building Bridges: The Challenge Goes On

四国大学講師 フェネリー・マーク

学生にとってボランティア活動は、地域社会への架け橋そして未来の自分と今の自分を結ぶ架け橋でもあります。

2005年にスタートした「四国大学学生ボランティア活動支援室」は、学生自身が直接運営する地域と大学をつなぐ拠点として、多くの学生がボランティア活動への関心を高め、地域のニーズに応えるよう努めています。

支援室ではボランティア経験者がスタッフとして働き、ボランティア情報の提供、活動のためのアドバイス、事前のオリエンテーション等を実施しながら、活動の輪を広げています。この輪の広がりは、参加した学生が、次はあれがやりたい、これがやりたいと新しく挑戦していく姿勢に繋がっています。また、ボランティア活動はただ働きではなく共働きの活動であり、活動内容によっては負担を願うこともあるなど依頼者としての責任を呼び掛けながら、地域社会との連携を強固にしていく働きかけを行っています。

このような支援室の活動は小さな活動ではありますが、いつかイギリスの若者のように日本の学生がボランティア活動に参加できる時間的余裕・経済的支援・機会が増え、人と係る力のある人材が養成されることを期待しています。



やるでよ、プラザ

22年度事業予定

春

- アドバイザー派遣事業応募受付開始
- NPO自立支援塾開始（全10回講座実施予定）
- ボランティア・NPO活動一般・リーダー養成研修（年2回程度実施予定）
- ボランティア・NPO法人化支援セミナー（年2回程度実施予定）

夏

- TICチャレンジプログラム in かいよう（仮称）
- サテライト・オフィス事業（南部総合県民局管内、西部総合県民局管内で実施予定）

秋

- 災害ボランティアコーディネーター養成講座～フォローアップ編～（西部・南部・中央ブロック）
- ボランティア・NPOフェア

冬

- 第10回とくしまNPOフォーラム
- 第10回ボランティアコーディネーター研究集会 in とくしま

力をつけよう！NPO自立支援塾 第3期生 修了 報告



7月から2月まで毎月1回連続講座として行われた「NPO自立支援塾」。

NPOの基礎知識からはじまり、広報、ファシリテーション、コミュニティビジネスなどを様々な講師からワークショップを交えて講義いただき、団体運営の基盤強化や立ち上げに必要なミッションの再認識を行いました。

また、県内で活躍しているNPOのリーダーたちの熱いおもいや手腕、団体の取り組みについて学び、実際に現場に赴き楽しみながら見学や体験をしました。

連続講座ならではの受講生どうしの新たなネットワークづくりにも役立っています。



参加者の声 ……

- ◆最新の具体事例を含め説明がよくわかり、成功事例のDVDでは生の声が聞けてよかった。(30代・男性・コミュニティビジネス講座を受講して)
- ◆皆さんがいきいきと働く場を創造していることに感動しました。(50代・男性・鳴門市の現場で)
- ◆実例を中心に理念にもふれられた。(70代・男性・上勝町の現場で)
- ◆組織運営の中でいかに人を動かし、周りを動かしていくのかについてのヒントになる言葉がたくさんあった。(30代・女性・神山町の現場で)

22年度もさらなるパワーアップを目指して自立支援塾企画中。こうしたい、こんなのはというご意見もどしどしお寄せください。お待ちしています。

助成・支援

●まちづくりに関する事業に助成●

平成22年度

『街なか再生NPO等助成金』公募

申込締切：平成22年3月31日（水）【消印有効】

助成金額：1件当たり100万円以内

問合せ：財団法人 区画整理促進機構

街なか再生全国支援センター

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-3-11

花菱平河町ビル3階

TEL：03-3230-8477 FAX：03-3230-4514

URL：<http://www.sokusin.or.jp/machinaka/index.html>

●ボランティア活動に関する助成●

第27回(平成22年度)みずほ教育福祉財団 「老後を豊かにするボランティア活動資金」

申込締切：平成22年5月31日（月）【必着】

助成金額：1グループにつき10万円を限度とする。

助成グループの数は140グループ程度

問合せ：財団法人 みずほ教育福祉財団

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-5

みずほ銀行本店内

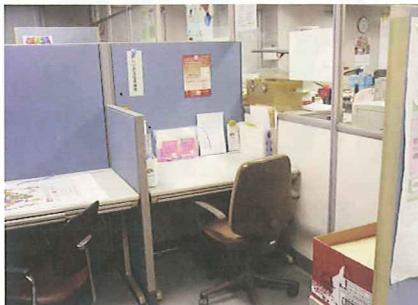
TEL：03-3596-4532 FAX：03-3596-4531

URL：<http://www.mizuho-ewf.or.jp>

P L A Z A



貸しデスク付 ボランティア登録団体募集



プラザ内に、パソコン持参でネット接続もできる活動デスクを貸し出しいたします。同時に、登録ボランティアとなってもらって、情報集めや新聞スクラップ、パソコン入力作業等をお手伝いしていただきます。

スタッフと一緒にプラザの仕事に携わってみませんか？

プラザ
本棚

気がつくと
机がぐちゃぐちゃになつてゐる
あなたへ



リズ・ダベンポート著
(平石律子訳) 草恵社刊

みなさん、自分のデスクをきちんと整理出来ていますか？「分かっているけどなかなか片付けられない」そんな声が聞こえてきそうですね。そういう私も気が付くと書類が山積みになっている一人ですが・・・。

この本にはデスクを整理するためのノウハウが分かりやすく書かれています。例えば「まずデスクに空きスペースを作る」なんだかすぐ出来そうですよね？この本を読んで整理上手なあなたにバージョンアップしてみてはいかがですか？

本紙では、社会を良くしたいとの熱い想いを胸に抱き、地域で抱える課題の解決や、地域の活性化、元気づくりに取組まれている「ひと」を紹介しています。「一灯照隅」という言葉があります。1本のろうそくでは世の隅をわずかに照らしていくだけかもわからない。しかし、この一灯が全国に広がり、万人が照らせば、「万灯照国」、もっともっと素晴らしい社会になるのではないでしようか。

今後とも、読者の目線で、楽しく役立つ紙面づくりに心がけてまいりますので、よろしくお願いします。(矢野 篤司)

NPOやボランティアについては何もかもが新鮮で、プラザでは奮戦する毎日でした。でも、同期スタッフやプラザのみなさん、わたしに関わってくださった人たちに励まし、支えてもらいながら乗り越えることができました。自分自身も成長し、一段となくましくなったように思います。本当に感謝しています。

プラザはたくさんの出会い系の場です。この広報誌も出会い系がたくさんあります。もっと多くのひとが関わりを持ち、共感してもらうことが大切だと考え、できた広報誌は、活動をしている方々の熱い思いをカタチにし、取材・作成しているスタッフの伝えたい思いで完成します。お手元に届いたら、広報誌に込められた思いも受け取ってご愛読ください。うれしい限りです。（吉崎　由理）

とくしま県民活動プラザ

- プラザは、ボランティア・NPO・地域づくりなど、県民皆さんの自主的、自立的活動を総合的に支援する拠点として平成14年にオープンしました。運営は(特非)とくしま県民活動プラザと(社福)徳島県社会福祉協議会・とくしまボランティア推進センターが協力して行っています。

4つの機能で応援

1 情報収集・提供

団体のイベント開催チラシや会報、活動がわかる情報を広く発信。また、企業・行政の助成金・各種研修会などの情報や関連図書・ビデオも収集しています。(ホームページ、広報誌、関連図書、団体グループの情報、各種助成情報)

2 活動・交流の場

グループでの会議や活動のPRに必要なチラシなどの作成に必要な設備を備えています。(ミーティングコーナー、会議室、パソコン・コピー機、作業室)

3 相談・支援

ボランティア・NPOに関する質問・ご相談にお応えします。グループとして専門的なアドバイスが必要なときには、アドバイザーを派遣します。(ボランティア相談、NPO相談、アドバイザー派遣)

4 人材育成・研修

団体が力をつけるための、研修会やイベントを実施します。(一般研修、リーダー研修、NPOフォーラム、ボランティア・NPOフェア)

●プラザ休館日:月曜日(祝日の場合はその翌日) 年末年始(12/29~1/3)

門館時門・10:00～18:00

【研修室・作業室利用時間】火曜日～土曜日10：00～21：00、日曜日10：00～18：00



●公共交通機関のご案内

JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、[沖洲・マリンターミナル]または[中央市場]行きに乗車し、[沖洲マリンターミナル]にて下車

子どもたちの元気と笑顔が、町全体を活気づかせます。上勝町では、子どもたちに体験の場を用意して、地域の人も子どもたちも一緒に学び、そのことをとおしてさらに町を盛り上げようとしています。

「子どもたちにいろんな体験をさせてあげたい。」「いろんなことを教えてあげたい。」そんな地域の人の想いが活動を支え、広がっています。そして、子どもの好奇心と自主性が大人のやる気を呼び起こし、お互いの気持ちが相乗効果を生み、さらに活動を進展させるとともに、地域力の向上へつながっています。

上勝発

子ども×大人＝地域力UP



とくしま
福祉広報

161号
mar.2010

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内

tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250

e-mail: info@e-fukushi.jp http://e-fukushi.jp



自分たちにもできること
環境を考えて、廃油を使ってのローソクづくり。
ゴミにしていたものが生まれ変わることを知りました。



藍の葉を発酵させて、藍染めをみんなでしました。



チャレンジプログラム in かみかつ 上勝町をはじめ、阿波市・海陽町のみんなで。

社協って、時代に沿つて進化しているのだろうか？

前号で報告したアンケート結果を踏まえ、社協について話し合つていだきました。

◆アンケートから

日開野



四国大学短期大学部
教授
日開野 博さん

アンケートの結果から、社協の名前は知つていてがどんな事業をしているのか詳しくはわからな。社協は高齢者のことをして思つている人が多いということがわかります。

◆社協はなにするところ？

佐和

社協は仕掛け人です。今の課題を追いかけていくのは出来てもその先の課題を見つけていくのがいけないと思う。木屋平は10年後、20年後の脇町かもしれない。木屋平は限界集落で、合併を機会にこれから自分たちで頑張つていかなければいけないという地域の人たちの気持ちがあつたから、それぞれに

やつていたものをネットワークを作つて方向性を持つて進めていけるようになつた。提案は社協がしましてが、住民の同意を得なければいけない。仕掛けるのは社協なんです。地域のプラットフォーム作りに社協が仕掛けていく。点と線と面を意識して作つていくのが社協ですね。今までこ入れ状態ですが、住民に意識を持つてもらう仕掛けが必要です。順番づけをして戦略を持つていく。

岩城 これからは互助の部分をしっかり育てるためには、近隣のゆるやかなつながりを「信頼感」として確保しながら地域福祉の推進を図らないとその発展は見えてこないのだろうと思います。互助っていうのは、これから社会福祉の基礎を担つていたく部分であり、行政に頼るわけにはいかない部分でもあります。最終的に見据えるのは「地域自治」だと考えていますが、簡単に言えば「おたがいさま」の活動をもう一度築き上げること。そのためには、時にはお金も必要ですし、情報も必要になつてくる。そこを社協がフォローしていくかなくてはならないのだと思つています。

◆組織が大きくなつたが：

佐和

社協は、介護保険事業もやっています。介護事業も社協の一環だとわかつてもらうことが必要なんですね。分割されるというイメージがあります。ごくあつたんですが、社協が行う介護保険事業の意味っていうのがあるんですよ。それは、地域福祉の視点で物事を判断できるワーカーなんですよ。収益の出ない事業所もありますが、そこには地域福祉を推進する社協が取り組む意味があるんです。だから、介護保険の事業職員は、一番個人に近い存在なんだから、ニーズを拾い出せる、見いだせる職員でなければいけないんです。社協は、ニーズ対応チームなんです。

岩城 社協の場合、例えば介護保険事業などで採算の合わない、一般

やつていた活動の中で、地域のニーズを拾い上げ、場合によっては行政機関などに届ける役割を持つ。そのため、社協を土台としたボトムアップのシステムを作る必要がありますし、地域の方々にも社協をツールとして活用してほしいと考えています。

日開野

社協は、地域の中の課題を拾い上げる組織なんだというのがベースですよね。拾い上げて地域住民とともに、問題解決に向かつていく仕組みづくりです。

岩城 私たちは、時代に合わせて変化していくします。でも、時代が変わっても地域を基盤として地域の方と向き合つて活動をしていくことが大切です。

（敬称略）
住民とともに
助け合いの
まちづくりを
進めてあります。

社会福祉法人
徳島県社会福祉協議会

徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
TEL088-654-4461 FAX088-654-9250
<http://e-fukushi.jp/> e-mail: info@e-fukushi.jp

まとめ編

ありがとうございます

●個人タクシー協同組合様から県内社会福祉施設へ車いすをご寄贈いただきました。●遊技業協同組合様から県内社会福祉施設へパソコンをご寄贈いただきました。●ファイナンシャルアドバイザー・徳島県協会様から、福祉車両と車いすをご寄贈いただきました。●徳島県府友会様から徳島県社会福祉協議会へご寄付いただきました。●NPO法人モバイルコミュニケーションファンド様・株式会社NTTドコモ様から徳島県社会福祉協議会へご寄付いただきました。●徳島県商工会青年部連合会様から徳島県社会福祉協議会へご寄付いただきました。

これからも、いつまでも
頼りがいのある銀行として、
地域のみなさまとともに歩んでまいります。

みなさまの「こころ」のメインバンクへ――

阿波銀行
<http://www.awabank.co.jp/>

環境にやさしい銀行を目指し
環境保全活動に取り組んでいます。



ISO14001認証取得
(登録範囲は本店)

徳島銀行
<http://www.tokugin.co.jp>

の会社であれば撤退するような地域であつてもセーフティネットの役割と認識しニーズに応じてサービスを提供する事例も多くあります。収益性で決めるわけではないんです。そ

うした活動の中で、地域のニーズを

拾い上げ、場合によっては行政機関

などに届ける役割を持つ。そのため

シス

テム

を

作

る

必

要

が

あ

り

ます

。

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ

の

た

め

に

そ